

## 小学校・中学校における「特別の教科 道徳」の教材としての障害 —障害と内容項目の関連に着目して—

青木 利樹<sup>1</sup>・田中 亮<sup>2</sup>・奥住 秀之<sup>3</sup>・大井 雄平<sup>4</sup>

要旨：「特別の教科 道徳（道徳科）」の改訂に伴い検定教科書（教科書）が導入された。小学校、中学校共に教科書の内容に、障害が扱われていることが注目されている。本稿は、道徳科の教科書を発行している小学校8社、中学校8社のそれぞれ全学年の教科書の内容を網羅的に調査し、道徳科の教科書において、内容項目ごとの障害の扱いの傾向を検討した。小学校の教科書では97教材、中学校では71教材で障害が扱われており、内容項目ごとに見ると、小学校では、「生命の尊さ」で障害を扱うことが最も多く、次いで「思いやり・親切」、「希望と勇気、努力と強い意志」が多かった。また、中学校では「生命の尊さ」が最も多く、次いで「希望と勇気、克己と強い意志」、「思いやり・感謝」が多かった。道徳科は、小学校、中学校の両方で、障害理解教育に関連する重要な教科であることが推察された。

キーワード：特別の教科道徳 教科書 障害 特別支援教育 障害理解教育

### I. はじめに

2015年に学校教育法施行規則の一部と学習指導要領が改訂され、これまで領域の1つであった「道徳の時間」が「特別の教科 道徳（以下、道徳科）」として教科化された。道徳科は、よりよく生きることの基盤となる道徳性を養うことを目標とし、学校教育全体を通して行われる道徳教育の要として位置づけられた。移行期間を経て、小学校では2018年から、中学校では2019年から完全実施されている（文部科学省，2018）。

道徳科の改訂に関する1つの視点として、これまでの道徳と比べて、発達の段階を踏まえた体系的な内容になったということがある。その具現化に向けて、小学校から中学校までの内容の体系的性を高めるとともに、構成やねらいを分かりやすくするために、それぞれの内容項目に手がかりとなるキーワードが示された（文部科学省，2018）。

道徳科の内容項目については、「A主として自分自身に関すること」、「B主として人のかかわりに関すること」、「C主として集団や社会とのかかわりに関すること」の4つの視点から整理されている。小学校は、Aが6項目、Bが5項目、Cが7項目、Dが4項目の22項目から構成されており、中学校は、Aが5項目、Bが4項目、Cが9項目、Dが4項目の22項目から構成されている（文部科学省，2018）。

また、道徳科の教科化に伴い検定教科書（以下、教科書）が導入された。小学校学習指導要領（平成29年告示）解説「特別の教科 道徳編」においても、「主たる教材として教科

<sup>1</sup> 東京学芸大学教職大学院

<sup>2</sup> 塩尻市立塩尻東小学校

<sup>3</sup> 東京学芸大学

<sup>4</sup> 常葉大学

用図書を使用しなければならない」とあり、教科書の使用義務が明記されている。文部科学省（2019）の教科書目録によると、小学校、中学校共に8社から教科書の出版がなされている。小学校の教科書については、導入から一度の改訂が行われ、2020年から改訂された教科書が使われている。

ところで、道徳科の教科書には障害に関する内容がいくつか扱われている。先行研究を見ると、田中（2020a）は、改訂前の小学校の教科書において、障害を扱う教材の掲載の傾向を調査しており、出版社ごとの掲載数に差があることを報告している。また、小学校の教科書の改訂後も、大西（2020）が小学校と中学校の教科書及びそれに付随する資料における特別支援教育の扱いについて調査し、特別支援教育に関連する内容が多様な扱われ方をされており、これは障害理解教育をはじめとするインクルーシブ社会・共生社会における道徳科の可能性を示唆するものである。しかし、単元の主なねらいとする内容項目ごとの障害の扱いの傾向は十分検討されてはいない。

本稿では、大西（2020）の調査を基盤にして、現在発行されている小学校8社、中学校8社の教科書を網羅的に調査し、内容項目と障害種の関連を検討した。

## II. 方法

文部科学省の教科書目録（2019）によると、小学校の道徳科教科書は教育出版、光村図書、東京書籍、学校図書、学研、廣済堂あかつき、日本文教出版、光文書院の8社から発行されている。各社の第1学年から第6学年の教科書を対象とした。また、中学校道徳科の教科書は、教育出版、光村図書、東京書籍、学校図書、学研、廣済堂あかつき、日本文教出版、日本教科書の8社から発行されている。各社の第1学年から第3学年の教科書を対象とした。

小学校、中学校ごとに教科書の本文や指導書の学習の流れで障害を扱う教材を取り上げ、その障害種を出版社ごとに整理した。さらに、小学校、中学校ごとに扱われている障害種と、障害が扱われている単元の主なねらいとする内容項目の関連を整理した。障害種は、「視覚障害」、「聴覚障害」、「知的障害」、「肢体不自由」、「病弱・身体虚弱」、「障害全般、その他」の6つに、第一筆者が分類した。内容によって複数項目に該当する教材の場合は、いずれにも該当することとした。分類にあたっては、小学校の道徳推進教員経験者1名、教育学研究者1名による確認を行い、一定の客観性が担保できる工夫をした。

なお、本調査では、一時的な怪我や病気を扱う教材、高齢者を扱う教材、臓器移植に関する教材、単元として独立していないコラム教材は、研究の目的との相違が考えられるため調査対象外とした。

## III. 結果

### 1. 道徳科教科書における障害の扱い

表1は、小学校道徳科の教科書における障害を扱った教材を、障害種ごとに示したものである。

小学校道徳科の教科書において、障害を扱った教材は97教材で、そのうち、「視覚障害」が17教材、「聴覚障害」が8教材、「知的障害」が1教材、「肢体不自由」が23教材、「病弱・身体虚弱」が33教材、「障害全般・その他」が15教材であった。「障害全般・その他」

小学校・中学校における「特別の教科 道徳」の教材としての障害  
—障害と内容項目の関連に着目して—

には「言語障害」や「容貌障害」、パラリンピックの紹介をする教材やユニバーサルデザインに関する教材などが見られた。

表 2 は、中学校道徳科の教科書における障害を扱った教材を障害種ごとに示したものである。中学校道徳科の教科書において、障害を扱った教材は 71 教材で、そのうち、「視覚障害」が 8 教材、「聴覚障害」が 3 教材、「肢体不自由」が 22 教材、「病弱・身体虚弱」が 24 教材、「障害全般・その他」が 14 教材であった。「障害全般・その他」には「言語障害」、「容貌障害」や「障害者差別解消法」を取り上げている教材、パラリンピックや義肢装具に関する教材が見られた。なお、中学校道徳科の教科書において「知的障害」を扱った教材は認められなかった。

小学校、中学校ともに、「病弱・身体虚弱」を扱った教材が最も多く、「肢体不自由」、「視覚障害」がそのあとに続く結果となった。一方、今回設定した項目の中で、最も扱われることが少ない障害は、小学校、中学校ともに「知的障害」であった。

表 1 小学校教科書における障害の扱い

出版社	視覚障害	聴覚障害	知的障害	肢体不自由	病弱・身体虚弱	障害全般・その他	計
A社				3	4		7
B社	2	1		4	4	1	12
C社	5	3		2	2	1	13
D社	3		1	3	3	4	14
E社	2	1		4	5	1	13
F社	2	2		4	7	3	18
G社	1	1		2	4	2	10
H社	2			1	4	3	10
計	17	8	1	23	33	15	97

表 2 中学校教科書における障害の扱い

出版社	視覚障害	聴覚障害	知的障害	肢体不自由	病弱・身体虚弱	障害全般・その他	計
A社	1			3		2	6
B社	1	1		3	3	1	9
C社				5	5	3	13
D社				1	2	2	5
E社	1	1		1	2	1	6
F社				3	6		9
G社	2			2	4	3	11
H社	3	1		4	2	2	12
計	8	3	0	22	24	14	71

## 2. 小学校道徳科の教科書で扱われる障害と内容項目の関連

表 3 は、小学校道徳科における内容項目ごとの障害の扱いを示したものである。小学校道徳科の教科書において障害が扱われている 97 教材のうち、「生命の尊重」の内容項目において最も多く 23 教材で、そのうち、22 教材が「病弱・身体虚弱」で、1 教材が「肢体不自由」であった。

次いで、障害の扱いが多かった内容項目は「親切、思いやり」で、22 教材であった。「親切、思いやり」では、「視覚障害」が 8 教材、「聴覚障害」が 2 教材、「肢体不自由」が 7 教材、「病弱・身体虚弱」が 3 教材、「障害全般・その他」が 3 教材であった。

3 番目に障害が扱われることが多かった内容項目は「希望と勇気、努力と強い意志」で、

小学校・中学校における「特別の教科 道徳」の教材としての障害  
—障害と内容項目の関連に着目して—

16 教材であった。「希望と勇気、努力と強い意志」では、「視覚障害」が 5 教材、「聴覚障害」が 3 教材、「肢体不自由」が 6 教材、「障害全般・その他」が 3 教材であった。

表 3 小学校教科書で扱われている障害と内容項目の関連 (n=97)

内容項目	視覚障害	聴覚障害	知的障害	肢体不自由	病弱・ 身体虚弱	障害全般・ その他	計
A主として自分自身に関すること							
善悪の判断、 自律、自由と責任							
正直、誠実	1						1
節度、節制							
個性の伸長			1	1		1	3
希望と勇気、 努力と強い意志	5	3		6		2	16
真理の探究	1					1	2
B主として人とのかかわりに関すること							
親切、思いやり	8	2		7	3	2	22
感謝							
礼儀							
友情、信頼					5		
相互理解、寛容							
C主として集団や社会とのかかわりに関すること							
規則の尊重				2			2
公正、公平、 社会正義				2		2	4
勤労、公共の精神	1					1	2
家族愛、 家庭生活の充実		3			1	3	7
よりよい学校生活、 集団生活の充実					2		2
伝統と文化の尊重、 国や郷土を愛する態度							
国際理解、国際親善	1					3	4
D主として生命や自然、崇高なもののかかわりに関すること							
生命の尊さ				1	22		23
自然愛護				1			1
感動、畏敬の念							
よりよく生きる喜び				3			3
計	17	8	1	23	33	15	97

### 3. 中学校道徳科の教科書で扱われる障害と内容項目の関連

表 4 は、中学校道徳科における内容項目ごとの障害の扱いを示したものである。中学校道徳科の教科書において障害が扱われている 71 教材のうち、「生命の尊重」の内容項目において最も多く 16 教材で、そのうち、「視覚障害」が 1 教材、「肢体不自由」が 2 教材、「病弱・身体虚弱」が 12 教材、「障害全般・その他」が 1 教材であった。

2 番目に多かった内容項目は「希望と勇気、克己と強い意志」で、11 教材であった。「希望と勇気、克己と強い意思」では、「視覚障害」が 1 教材、「聴覚障害」が 1 教材、「肢体不自由」が 7 教材、「病弱・身体虚弱」が 1 教材であった。

小学校・中学校における「特別の教科 道徳」の教材としての障害  
—障害と内容項目の関連に着目して—

3番目に多かった内容項目は「思いやり、感謝」で、7教材であった。「思いやり、感謝」では、「視覚障害」が3教材、「聴覚障害」が2教材、「肢体不自由」が1教材であった。

表4 中学校教科書で扱われている障害と内容項目の関連 (n=71)

内容項目	視覚障害	聴覚障害	知的障害	肢体不自由	病弱・ 身体虚弱	障害全般・ その他	計
A主として自分自身に関すること							
自主、自律、 自由と責任 節度、節制							
向上心・個性の伸長				1			1
希望と勇氣、 克己と強い意志 真理の探究、創造	1	1		7	1	1	11
B主として人との関わりに関すること							
思いやり、感謝	3	2		1		2	7
礼儀							
友情、信頼	1				3		4
相互理解、寛容				2		1	3
C主として集団や社会との関わりに関すること							
遵法精神、公德心							
公正、公平、社会正義	1			1	1	3	6
社会参画、公共の精神				1		2	3
勤労					1	3	4
家族愛、家庭生活の充実 よりより学校生活、 集団生活の充実				1	4	1	6
郷土の伝統と文化の尊重、 郷土を愛する態度							
我が国の伝統と文化の尊重、 国を愛する態度							
国際理解、国際貢献				1	1		2
D主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること							
生命の尊さ	1			2	12	1	16
自然愛護							
感動、畏敬の念							
よりよく生きる喜び	1			5	1		7
計	8	3	0	22	24	14	71

#### IV. 考察

##### 1. 教科書における障害の扱い

本調査では、小学校、中学校共に、「病弱・身体虚弱」が最も多く、次いで「肢体不自由」、「視覚障害」が多かった。一方、小学校、中学校の両方で「知的障害」が、今回設定した項目で最も少なかった。水野・徳田（2012）は、「道徳の時間」の主な教材であった副読本で扱われる障害が視覚障害や肢体不自由などのいわゆる「外から見て気づく障害」が多いことを指摘している。本調査で、「病弱・身体虚弱」、「肢体不自由」、「視覚障害」のように児童生徒が直感的に感じることができる障害が多く扱われているという結果は、水野らの指摘と重なりを見せた。また、知的障害のように困難の抽象性が比較的高いと思われる障害について道徳科の教材としては扱いにくいことが推察された。

## 小学校・中学校における「特別の教科 道徳」の教材としての障害 —障害と内容項目の関連に着目して—

大西（2020）の調査においては、小学校・中学校ともに「肢体不自由」が最も多く、次いで「病弱」、「視覚障害」が多い結果となっており、本調査の結果と必ずしも一致するものではなかった。この要因として調査の対象とする基準の差異などによる影響が考えられる。一方で、「視覚障害」、「肢体不自由」、「病弱・身体虚弱」が多く、「知的障害」の扱いが最も少ないという結果は、大西の先行研究と一致する。今後は、客観的な基準を設けるなどの工夫が必要であろう。

### 2. 「生命の尊さ」における障害の扱い

本調査では、小学校、中学校共に「生命の尊さ」の中で障害を扱うことが最も多く、そのほとんどが「病弱・身体虚弱」であった。田中（2020a）は、「生命の尊さ」の内容項目において、「病弱・身体虚弱」を扱うことで、その内容の理解が促進されることを指摘している。また、青木・田中・大井・奥住・小林（印刷中）は、病気の児童が通常の学級に通うことが増えているという現状を受け、学級に病気の児童が在籍する際の本人や保護者への心理的支援の必要性を指摘している。また、青木らは同論文で、病気の児童がいる学級の道徳科において「病弱・身体虚弱」の教材を扱う成果として、本人の心理的基盤の涵養や他の児童の病気や障害の理解につながる可能性を報告している。

一方で、通常の学級には、多くの病弱・身体虚弱児童が在籍していることは既に明らかになっているが（丹羽，2017；田中，2020b；全国特別支援学校病弱教育校長会，2020）、副島（2018）は通常の学級において病弱・身体虚弱教育全般や病院内学級を正しく理解している教員が少ないことを指摘している。そこで、道徳科において「病弱・身体虚弱」を扱うにあたり、田中・奥住（2020）が指摘するように、様々な観点から病気の児童生徒の特性や心理等の様々な観点を理解した上で指導を行うことができるように、校内外での研修等を利用して教職員が学ぶ機会を増やすことが必要であると考えられる。

### 3. 「親切・思いやり」、「思いやり・感謝」における障害の扱い

本調査では、「親切・思いやり」、「思いやり・感謝」の項目で障害が扱われることが多く、「親切・思いやり」、「思いやり・感謝」の項目で、「視覚障害」、「肢体不自由」が多かった。教材の挿絵では、白杖をもっている姿や車いすに乗っている姿が多く見られ、水野ら（2012）が指摘する「外から見て気づく障害」を軸に、障害者の日常生活での困難や障害者との関わり方に関する教材が多く確認された。北川・早川・福永・加藤（2017）は、道徳の時間に障害者との関わり方について考えることが、障害理解教育において重要な役割を担っていることを指摘している。

一方で、障害者との関わり方について道徳科で取り上げる際には注意が必要であることが、水野・徳田（2011）において指摘されている。すなわち、「親切・思いやり」、「思いやり・感謝」の内容項目で「肢体不自由」を扱った教材のなかには、「主人公が車いすを押すのを手伝う教材」と「障害児者本人がやれることは手伝わない教材」、「障害児者が、健常児者と同じように扱ってほしいと思う教材」と多様な教材がある。これらの教材は、障害児者への支援の在り方を考えるきっかけとなる教材であるが、そのような教材を扱う際には、水野らの指摘するように、誤った障害者像を児童生徒に抱かせず、障害理解の発達段階に即した指導を行っていくことが重要であろう。このとき、青木（印刷中）が指摘する

ように、特別支援学級の担任教員や特別支援学校のセンター的機能担当教員の助言を受けるなど、特別支援教育の専門性のある外部人材を活用することも有効であろう。

#### 4. 「希望と勇気、努力と強い意志」、「希望と勇気、克己と強い意志」の障害の扱い

本調査では、「希望と勇気、努力と強い意志」、「希望と勇気、克己と強い意志」の内容項目において障害が扱われることが多く、中でも「視覚障害」や「肢体不自由」に関する教材が多かった。教材を見ていくと、自身も視覚障害があり、視覚、聴覚、言語に障害のあったヘレン・ケラーの家庭教師をしていたアニー・サリヴァンを取り上げた教材や、パラリンピアンである谷真海や国枝慎吾らを取り上げた教材など、障害がありながらも活躍する当事者の話を取り上げたものが顕著であった。肢体不自由児者の車いすや義肢装具等を使う際の生活の困難は児童生徒がイメージしやすいことから、「希望と勇気、努力と強い意志」、「希望と勇気、克己と強い意志」の内容項目について、理解が深まるという成果が得られていることを田中・奥住・平田（2020）は報告している。東京オリンピック・パラリンピックとの関連も含めて、次の教科書改訂と教材との関連の検討も必要であろう。

#### V. まとめに代えて

本稿では、小学校と中学校の現在発行されている道徳科の教科書において、内容項目ごとの障害の扱いについて検討を行ったところ、小学校 97 教材、中学校 71 教材と一定数以上の障害を扱った教材があった。小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説「特別の教科道徳科編」において、「障害の有無などに関わらず、互いのよさを認め合って協働していく態度を育てるための工夫も求められる」と記述されており、障害理解教育の側面から見ても、道徳科が重要な教科であると言える。

また、本調査では、「視覚障害」や「肢体不自由」、「病弱・身体虚弱」など、児童生徒が「直感的に分かりやすい障害」が教材に多く取り上げられていた。反対に「知的障害」のように抽象性の高いと思われる障害はあまり扱われていなかった。また、特殊教育から特別支援教育に移行されて、新たに支援の対象となった学習障害や注意欠陥多動性障害等の知的に遅れのない発達障害について、教材で取り上げられることは確認されなかった。現在では、発達障害児は、通常の学級に 6% 以上も在籍するとされており、道徳科を受ける児童生徒にとって、極めて身近な存在であるが、身近過ぎるゆえに、障害の抽象性が高くなり、教材として扱うことが難しくなっているのかもしれない。一方で、教材を子細に見ると、障害名は明確でないが、自閉スペクトラム症の行動特性に関連するものを取り上げている教材もある。さらに視野を広げると、順番やルールを守れない、相手の気持ちを考えずに発言するなどの描写は多くの教材に取り上げられており、それらは発達障害の特性と重なると考えることもある。青木・田中・奥住・大井（2020）は、発達障害児が「道徳的価値」の内容項目に関連する困難があり、支援が必要であることを指摘しており、インクルーシブ社会・共生社会の基盤として、道徳科で発達障害児の特性や関わり方などを取り上げることは必要であると言えよう。また、加藤・武田（2017）は、道徳の時間において、障害理解を進めていくうえで、発達障害等のいわゆる「見えない障害」を扱うことの必要性を指摘しており、今後の道徳科での取り扱いの動向に注目する必要があるだろう。

## 引用文献

- 青木利樹（印刷中）小学校の道徳科における連携・協働の重要性と特別支援教育. 日本教育支援協働学研究, 3.
- 青木利樹・田中亮・奥住秀之・大井雄平（2020）小学校「特別の教科道徳」におけるLD等発達障害児の特性・困難と配慮・支援—「教育支援資料」と小学校学習指導要領解説「特別の教科道徳編」との関連—. 教育研究実践報告誌, 4(1), 19-26.
- 青木利樹・田中亮・大井雄平・奥住秀之・小林巖（印刷中）小学校「特別の教科 道徳」における病気の児童への指導の成果と課題—心理的な支援を視野に入れて—. 東京学芸大学教育実践研究, 17.
- 加藤充子・武田鉄郎（2018）小学校6年間の系統立てた障害理解教育の一提案—2つの道徳授業の実践を通して. 和歌山大学教職大学院紀要：学校教育実践研究, 2, 159-167.
- 北川沙織・早川裕隆・福永純恵・加藤哲則（2014）通常学級における聴覚障害理解授業の実践—道徳の時間との関連を中心に. 上越教育大学教職大学院研究紀要, 1, 115-123.
- 水野智美・徳田克己（2011）道徳副読本における障害の扱われ方の適正化. 教科書フォーラム, 8, 44-51.
- 水野智美・徳田克己（2012）道徳副読本における障害の扱われ方の変化. 教材学研究, 23, 273-280.
- 文部科学省（2018）小学校学習指導要領（平成29年告示）解説「特別の教科 道徳編」.
- 文部科学省（2019）教科書目録.
- 丹羽登（2017）小児医療の進歩に伴う病弱教育の変化と課題. 教育学論究, 9(2), 191-192.
- 大西孝志（2020）道徳における特別支援教育の扱いについて—教科書の分析を通して. 東北福祉大学教育・教職センター特別支援教育研究年報, 12, 3-13.
- 副島賢和（2018）病気の子どもへの教育における大きな課題. 教育と医学, 66(8), 700-706.
- 田中亮（2020a）小学校・特別の教科道徳における「障害」を扱う教材. 未来を拓く教育実践学研究, 4, 140-149.
- 田中亮（2020b）病弱教育における現代的な課題と専門性（特集「障害」から問い直す特別ニーズ教育）. SNEジャーナル, 26(1), 48-63.
- 田中亮・奥住秀之（2020）都道府県及び中核市の教職員研修センターにおける病弱教育に関する研修の実施状況—指導法改善や教育課程編成に向けた校外研修のあり方. SNEジャーナル, 26(1), 162-175.
- 田中亮・奥住秀之・平田正吾（2020）小学校の道徳科における肢体不自由児・者に関連する教材の一考察—教科書を中心とした指導法の改善及び教育課程編成に向けて—. 千葉大学教育学部研究紀要, 68, 241-246.
- 全国特別支援学校病弱教育校長会（2020）特別支援学校学習指導要領等を踏まえた病気の子どものための教育必携. ジアース教育新社.